

New Year Dance 2025



1月11日 杉並公会堂グランサロン



マスクなしで2ダンス



大森ヒデノリさん・青山るりさん

ブランチ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室
3月16日(日) 1:30-4:00 講師 トム 鳥山
4月20日(日) 1:30-4:00 講師 境 雅子
お問合せ: 担当 渋谷明美 047-351-8581

ブランチ行事予定

6月1日(日) 年次総会&ソーシャル・ダンス
赤羽会館・小ホール
8月3日(日) Book 54 ダンス講習会
杉並公会堂・グランサロン

2025年度会員登録のお願い

2025年度会員登録の時期になりました。2025年度のRSCDS会費は¥5,900、東京ブランチ会費は前年度と同額の¥2,500です。くわしくは同封の「会員登録のお願い」によりますが、概略下表のとおりです。ゆうちょ銀行通常貯金口座にご送金ください。締切り: 3月末日

Table with 3 columns: Registration Method, Tokyo Branch Fee, Other Branch Fee

(ご友人にもお誘いを)

最近の本部ニュース

- ・Book 54 は 18 ダンス、2 枚組 CD で 7 月に発売される。
- ・ウィンタースクール 2025 の予約状況はほぼ定員に達した。
- ・本部地下室を 2025 年 1 月から貸室とし、テナントを募集する。
- ・セント・アンドルーズ大学の宿泊費が 35% 値上げされたため、サマースクール 2025 の参加費は 20% 値上げせざるを得ない。

運営委員会報告

2025.1.9 (港区生涯学習センター。以下同じ)

- ・1/11 New Year Dance 2025 の準備を最終確認した。前半終わりの 2 ダンスはスナップ写真撮影でマスクなしで踊ってもらい、その後の集合写真撮影につなげる。
- ・4 月・5 月はランチ・クラスを行なう。
- ・2/2 の 3 ブランチ連絡会で、新年度の本部会費額は ¥5,800 を提案する。ランチ会費は昨年度と同額の ¥2,500。
- ・6/1 または 6/14 にランチ年次総会を開くことにし、会場手配を進める。⇒ 6/1 となった。
- ・今後の出版予定：2 月ランチレター、3 月なし、4 月 A4 ニュース、5 月総会議案書とランチレター。
- ・RSCDS サマースクール 2025 は宿泊費の高騰と円安により、参加し難いものになっている。

2025.2.7

- ・1/11 New Year Dance 2025 は、ライブ音楽で落ち着いたダンス会だったとの参加者の言葉。アンコールの声がかかるような華のあるダンス・プログラムならもっとよかったとの感想。
- ・入場料徴収の有無で杉並公会堂使用料が変わるが、今後は入場料徴収ありで同公会堂の抽選会にのぞむ。

- ・3 ブランチ連絡会で、2025 年度の本部会費額は ¥5,900 となった。
- ・埼玉ブランチ発議の 3 ブランチ合同ダンス会は、東海ブランチ主管で 2026 年 1 月 New Year Dance 開催を目指すことになった。
- ・2024 年度ランチ賞は会員からの推薦なく、委員会は小幡正明さんに贈呈することとした。贈呈式は 6/1 の年次総会で行なう。
- ・ランチ・クラスの参加者減少が続いている。クラスを休止するか継続するか、5 月までの参加者数をみて、年次総会でも問い、決めてゆく。
- ・年次総会後のソーシャル・ダンスのプログラムは 3 月委員会を決め、4 月のランチニュースで広報する。

クラスで踊られたダンス

12 月 22 日 篠塚昌子

The Wind that Shakes

the Barley 32R Duthie

Autumn Colours at

Nikko 32S Stott

The Dunedin Festival

Dance 32R Haynes

Bonnie Stronshiray

Miss Eleanor 32S Campbell

Follow Me Home

32J Book 36

2 月 16 日 小杉由美子

Loch Ness Monster

32R Graded 2

The Merry Dancers

32J Book 4

Lady Susan Montgomery

40S Leaflet

The Swilcan

32J Book 23

Auld Lang Syne

32S Book 27

Thistle Down Reel

32R Imperial 3

小幡正明さんに聞く

1984 年の東京ブランチ創立以前から、スコティッシュ・カントリー・ダンシング (SCD) とその音楽に親しみ、勉強され、踊ると同様に演奏にも加わっていたのが小幡正明さんです。心臓疾患のため、ダンシングは休止することになりましたが、50 年以上におよぶスコティッシュ・ダンシングの思い出を語っていただきました。(聞き手：トム鳥山)

SCD を始める前にはどんな踊りを？

1964 年頃ですが、学生時代フォークダンスをやっていました。

SCD をはじめるきっかけは？

先輩が池間博之先生に教わり、その先輩たちから教わったのです。

初期のころはどんなところで SCD を踊っていましたか？

か？

学舎内のサークルの会場でした。

そのころの指導者はどんな方がいたのですか？

池間先生、松橋順子さん、岡田昌子さん、大間知良一さんなどです。福岡に転勤したとき、原田裕さんの講習会にも出ました。1975 年にソサエティからビル・クレメントさんが派遣され、本物を見て圧倒されました。

た。ふつう膝は“く”の字に曲がるものですが、ビルさんのステップはまるで逆“く”の字のように見えました。その後来日したメリー&デビッド・ブランドン夫妻、メリー・マリーさんやアレスター・マクファジェンなどにも教わりました。



で加盟するのが議論になっていました。ソサエティのしくみがみなよくわかっていなかったのです。1983年に設立の動きが始まったのですが、日本ブランチと



New Year Dance Band 2011 で

いう名前に絶対反対する人もいましたし、設立は10年早いという人もいました。

創立から今までの東京ブランチの様子で感じることは？

よくやっていると思いますが、会員の高齢化が残念です。世の中、楽しむ対象がほかに多くなっているからでしょう。

その中で印象に残っていることは？

初めはブランチの目的がはっきりせず、情報交換や本部とのパイプ役でした。小川義忠さん（チェアマン）と岩崎誠司さん（セクレタリ）の代になって、ブランチとしてクラス、ウィークエンドをやるべきであり、ティーチャーを育てるべきということになったのです。1989年にレスリー・マーティンが受験生のチューターとして来日し、トレーニングを受けたことでSCDの捉え方がよくわかりました。

これからの東京ブランチおよび日本のSCD界にのぞむことは？

若返りがあってほしいと思います。そして楽しんで踊るべきですね。組織が大きくなるとステップなど教え方が教条的になっていきますが、たとえばセットなんかは右足から出てもいいんじゃないか、です
お気に入りのダンスは何ですか？

音楽の良し悪しから入ることが多くて、スコット・スキナー作曲の Mackenzie Hay（例：RSCDS Book 15、Camp of Pleasure の第2チューン）なんか好きですね。ダンスとしては Montgomerie's Rant や Broadford Bay でしょうか。

SCD 情報・資料・音源はどうやって知りえたのですか

池間先生が資料リスト・参考文献を学生に明示してくれたのです。そのころブリティッシュ・カウンシルが神田神保町にあり、その図書室で知ったものもあります。海外に本やLPなどを注文すると、カタログが同封されており、情報入手先が広まったということもあります。

ブック、LPなどの入手で海外注文・送金はどんな方法でやっていたのですか

1970年代、ジミー・シャンドのLPなんかは、洋盤を扱っていた銀座のヤマハ楽器のレコードショップに頼んで手に入れていました。友人がカタログのコピーを送ってくれ、ロンドンの店に注文したときは銀行小切手でした。本は日本橋の丸善に頼んでいました。1ポンドが5、6百円の時代でしたね。

東中野のグループをつくるきっかけは？

そのころ神田の「東京スコットランドダンスを楽しむ会」で踊っていたのですが、松橋さんがテレビに出たのです。それを見た新人が「楽しむ会」のレベルに追いつきたいということで、荒井俊則さんらみんなが集まって始めたのです。いまはみなシニアグループになっていますが、東中野に限らず、どこも男性が多かったですね。

東京ブランチ創立で思い出すことは？

個人で本部に加盟するのか、それともグループ単位

The Dean Bridge of Edinburgh – RSCDS Book 23

Original Tune – Dean Brig of Edinburgh

オリジナル・チューン

The Dean Brig of Edinburgh はEフラット・メジャー（変ホ長調）のパワフルで美しいスロー・ストラスペイである。RSCDS 出版物ではトラディショナルと表記しているが、それ以外の出版物はフォーファーのアーチャー・アランの作品であるとしている。また、アーチャー・アランの出版時のタイトルは *Miss Gray of Carse* であったともいわれている。しかしながら、メリー・アン・オルバーガーは著書の「*Scottish Fiddlers and their Music*」のなかで、2つの曲は同一ではなく、*The Dean Brig of Edinburgh* はタフ師 Rev Tough が作曲し、ピーター・ミルンが改作、世に広めたと述べている。タフ師のものであるというバージョンは *Davie's Caledonian Repository* (1840) に載っている。しかし、有名なトラディショナル・フィドラー、アレスター・ハーディは、チューンは間違いなくアーチャー・アランのものであるとしている。ともかく、だれのものであろうと、すばらしいチューンである。

ディーン・ブリッジについて

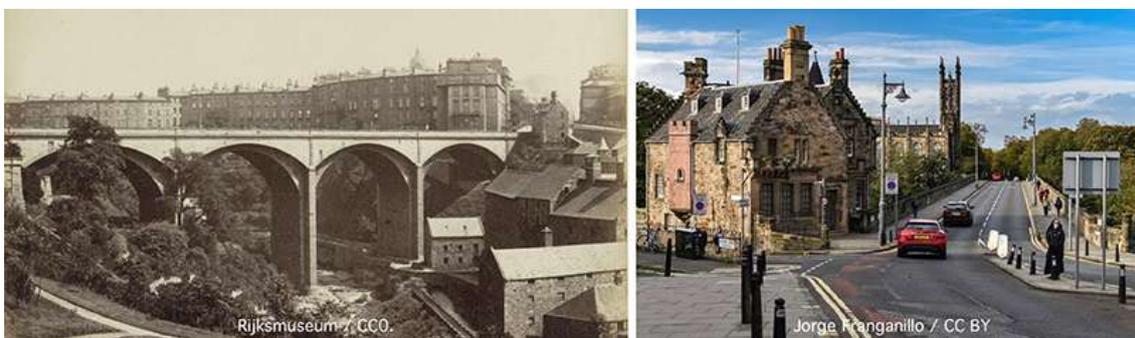
19世紀の初頭、エジンバラのニュータウンは開発が終わり、市は拡大中であつたが、リース川 *Water of Leith* の存在が北西部の開発を阻んでいた。ディーンの村落でリース川は深い谷を刻み、村は水力利用の長い歴史をもっていた。19世紀の初め、村は鍛冶屋、皮なめし業に加え、製粉業、繊維業の集落であつた。エジンバラからの幹線道路は谷に下り、17世紀の狭いベルズ・ブレイ橋（歴史的な渡河地点）でリース川を越えていた。



ベルズ・ブレイ橋

リース川

エジンバラをさらに発展させるには、もっと良い地点でリース川を越える新ルートを作る必要があつた。最初に新しい橋を提案したのは、リース川の北に所有地を持つジョン・リーマスだつた。彼は、橋に投資すればもうかることが分かっており、おそらく既得権を持っていた。だが、公道管理評議会は、英国における橋梁設計の第一人者、トマス・テルフォードが設計することを条件に、橋と道路に資金を提供することに合意した。建設は1829年に始まり、1831年（伊勢御蔭参りが大流行、北斎「富嶽三十六景」が人気を博し、良寛・十返舎一九が亡くなった天保2年）に完成した。



橋の外観（19世紀終わりごろ?）

現在のディーン・ブリッジ

4つのアーチを持つ長さ136mの石橋は、川から36mの高さにあり、現在、フォース・ブリッジおよび北のルートからエジンバラに入る国道A90の一部になっている。橋は周囲の景観とよくマッチしているので、旅行者は橋を渡るとき、その下に何があるのか気にもしない。橋の完成後、ディーンの村落は、復活運動によって魅力的になる20世紀終わりまで、経済的な衰退が続いた。

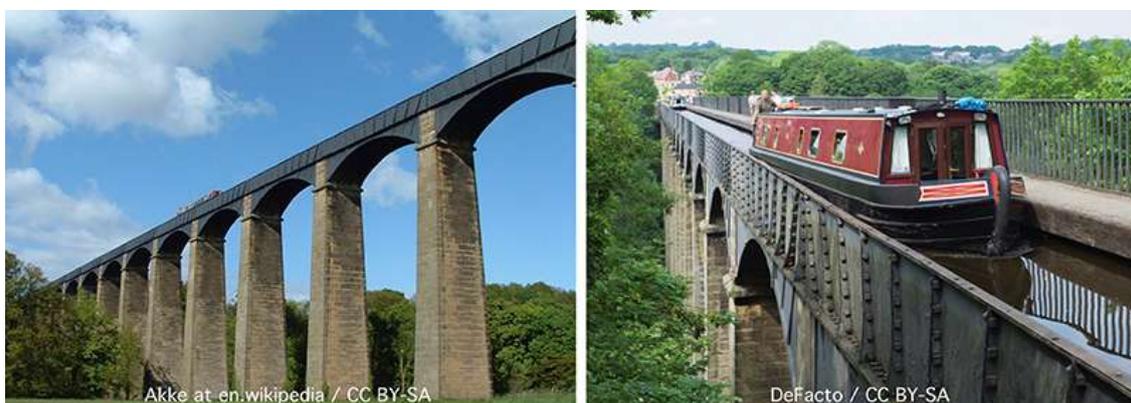
すてきな 20 km の遺産トレイルは、リース川に沿ってバラノ Balarno から始まり、ディーン村落、ディーン・ブリッジ下を通り、エジンバラ外港のリースで終わる。(Book 53 の Water of Leith である)

トマス・テルフォード (Thomas Telford)

ディーン・ブリッジは、18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて、数多い運河・道路・橋梁の設計を手掛けたトマス・テルフォード (1757–1834 伊能忠敬と同時代) の仕事の 1 つにすぎない。彼はダンフリーズシャーの小さな村で貧しく生まれ、生後 4 か月で羊飼いの父親が死ぬという困難な境遇の中で育った。苦闘の少年時代に代わって、テルフォードは、土木工学の境界を前進させる新しい設計と施工の技術を開発し、第 1 級の土木技術者の 1 人となった。彼は草創期の土木技術学会の初代会長になった。



彼を象徴する建築物は 2 つとも北ウェールズにある。エルズメア運河のポンテカサステ運河橋とメナイ海峡吊り橋である。運河橋は「空中の水路」として知られ、運河最盛期の最高の土木工学の成果と認められている。橋は 38m の高さにあり、長さは 305m、鉄製の U 字槽を石積みの脚柱が支えている。



ポンテカサステ運河橋

北ウェールズ本土とアングルシー島のメナイ海峡に架かるテルフォードの吊り橋は 1826 年に完成し、全長 417m、中央径間は 176m で、多くの人々はこれらを 19 世紀初頭のもっとも偉大な仕事であり、もっとも優れた橋梁建設とみなしている。



メナイ海峡吊り橋

スコットランドのテルフォード

トマス・テルフォードの遺産はいたるところにあると言っても過言ではない。スコットランドのインフラにおける彼の影響は巨大であった。港湾、漁業地域、道路、橋、教会、カレドニアン運河など、みなさんがスコットランドを旅行する場所のどこにでも、彼の仕事に出会う可能性が高い。

1788年にテルフォードはハイランド北西のアラプールの漁港設計で、英国漁業協会から助言を求められた。当時、アラプールは数軒の家があるだけの小さな集落だった。スコットランドの漁業は成長産業と考えられ、テルフォードは1790年から港湾や集落の開発を続けた。トバーモリー（マル島）、ポートルー（スカイ島）、ウィック、ピーターヘッド、カークウォール（オークニー島）が含まれる。彼の若いころ、彼を励ましてくれたウィリアム・パルトニーは、テルフォードの仕事に感銘を受けたが、それにちなんだウィックのパルトニー・タウンは新しい漁業の町として完成した。トバーモリーはカラフルな家並みで有名であり、20世紀には子ども向けテレビ番組でおなじみになった。



トバーモリー港

1804年から1824年まで、テルフォードはスコットランド全土におよぶ920マイル（1,500km）の道路と120の橋の建設を監督した。その1つ、クレゲラヒー・ブリッジは、非常に細かなアーチが必要という設計上の問題があった。テルフォードは鋳鉄を使用することでこの問題を解決し、その結果、この形式でもっとも美しい橋ができ上がった。この橋はスコットランドで最古の鋳鉄橋である。橋はウィリアム・マーシャルにストラスペイ「Craigellachie Bridge」（Book 43のCD、トラック12の*The Corian Strathspey (Encore)*の第1チューン）を作曲するインスピレーションを与え、2015年には英国郵便公社の記念切手にもなった。1964年から車の通行はできなくなったが、自転車と人には開放されている。



クレゲラヒーでスペイ川に架かるテルフォードの橋

1803年にテルフォードは、スコットランドで彼の成果として最も知られている、カレドニアン運河の設計と建設に着手した。運河建設における彼の手腕はよく知られていたが、カレドニアン運河は別の規模であった。運河は人工構造物と自然湖の組み合わせにより、グレート・グレンを貫通している。「ネプチューン（海の神）の階段」は運河のもっとも印象的な光景である。これは運河の南入口にあり、8基の閘門で海面から22mのレベルに船を上らせる。工学面では、28基の巨大な閘門とラガン集落の深い切通しのある幅30mの船舶運河は、そのころ世界でもっとも先進的であった。その設計は革新性にあふれ、こんにち土木工学の驚くべき偉業とすばらしい観光名所を残している。



上：タイン川の橋
下：アラプール

上：アルバのテルフォード教会
下：ダンケルドの橋

ネプチューンの階段

テルフォードの仕事はハイランドの領域を開放した。彼自身「少なくとも百年、国を前進させた」と言っている。彼は間違いなく史上最高の土木技師の1人であった。

スコットランドの歴史で、この日は

from Dance Scottish at Home, Issue 33, 23/3/2021

1603年3月24日（家康が征夷大將軍となり、江戸幕府を開いた慶長8年）

ジェームズ6世がイングランド王ジェームズ1世となった。エリザベス女王の死去のニュースは、ジェームズがイングランド王になったというニュースとともに、エジンバラのジェームズに届くまでに2日を要した。



イングランドのエリザベス1世女王は、約45年間の治世の後、69歳でリッチモンド宮殿で亡くなった。亡くなる前、死後の検死を行なってはならないと命じたように、彼女の死は永遠に謎に包まれている。明らかになった多くの珍しい事実の中には、彼女は顔に完全な化粧をしていたというものがある。彼女は子どもを持たずに亡くなった。

ウェストミンスター寺院に埋葬されたエリザベス女王の棺は、1606年にヘンリー7世礼拝堂に移され、ジェームズ1世が建てた彼女の記念碑の下に置かれた。

1603年3月24日

即位評議会が開かれ、イングランドの王位を継承する有力な候補者が他にいなかったため、スコットランドの



ジェームズは、スコットランド女王メアリーと彼女の2番目の夫であるヘンリー・スチュアート（ダーンリー卿）の一人息子であり、母親が王位を放棄したとき、1歳でスコットランド王になった。

即位から4か月後の戴冠式で、ジェームズはStone of Destiny 運命の石に座った。運命の石は1296年にイングランド王エドワード1世がスコットランドから戦利品として略奪したものである。

ジェームズの主要な貢献の一つは、1611年の公認欽定訳聖書であり、これは250年以上にわたって標準的な聖書のテキストとなった。

ジェームズ6世はイングランド王兼スコットランド王

となり、両国は同君連合となったが、その時にジェームズは議会の統合を提案した。両国はどちらの側も乗り気だったが、結局その提案は放棄された。それから100年後、ジェームズの提案は現実のものとなった。

1707年3月25日

この日スコットランドは最後の議会を開催し、1999年まで休会となった。1707年1月16日にイングランドとの連合条約に合意した後、議会は3月25日をもって休会となり、4月28日に解散された。スコットランド・イングランド連合は、1707年5月1日にグレートブリテン連合王国として成立し、ウェストミンスターで統一議会が開かれた。

政府の法律には、王位継承と王室がスコットランドの

自治都市を維持する条項が含まれ、議会におけるスコットランドの代表を詳述し、貴族院には16人の貴族院議員、庶民院には45人の議員とされた。さらに、スコットランドが今日まで行ってきたように、独自の法律、法制度、裁判所を維持することを確立した。スコットランドの王冠、王笏、国の剣（いわば三種の神器）はスコットランドに残ることになった。

1999年5月12日、スコットランド議会在再び開かれ、スコットランド議会議員のウィニー・ユーイング夫人が開会の挨拶を述べた。『私が常に言いたかった、あるいは他の誰かが言うのを聞いたかった言葉から始めたいと思います。1707年3月25日に閉会したスコットランド議会は、ここに再召集されました。』

新 Book・CD 紹介

Tom Toriyama

Ready, and... Atlantic Firth Scottish Dance Band ... CD のみ

- | | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. Ardbrae Angel (8x32R) | 6. Waltz | 11. J. B. Milne (8x32R) |
| 2. The Goat Fell Gallop (4x32J) | 7. Beach Dancer (8x32J) | 12. City Lights (8x32J) |
| 3. Hedwig's Reel (8x32R) | 8. Deil Amang the Taylors (8x32R) | 13. Huntly Castle (4x32S) |
| 4. Autumn Leaves (6x32S) | 9. The Ferry Louper (8x32J) | 14. The Wild Geese (10x32J) |
| 5. The Raven's Dance (8x32J) | 10. Asilomar Romantic (8x32S) | 15. Something in the Air (6x32S) |

紙製ケースの写真からお判りのとおり、アトランティック・ファースというバンドはカナダ・オタワのバンドである。多重録音だが主な楽器はアコーディオン、フィドル、ギター、ピアノで、リズム隊にギターが入っているのが珍しい。家で聞いたところ、いつも聞きなれている英国のバンドとアコーディオンの音色が違うように感じられた。英国のほとんどのバンドはドイツ・ホーナーHohner社製のアコーディオンを使っているが、このバンドはイタリア・ピジーニPigini社製である。製造会社によってアコーディオンの音色が異なるとは考えにくいので、この違いは奏法によるものであろう。クラス会場では音色の違いは気にならない。

しっかりしたギターとピアノのリズムに乗って堅実なアコーディオンとフィドルが演奏されている。メロディに遊び心・装飾はあまり感じられないので、クラスでもダンス会でもきちんとしたステップで踊れるだろう。

Ardbrae Angels は、CD制作に協力したオタワのアードブレイ・グループ会員が作った踊り。残念ながらダンス作者はこのCDの完成を見ることなく亡くなったという。踊り方説明書を入手しているのでCDに添付してお送りする。このダンス以外はRSCDSブックまたはインターネットで踊り方が分かるものばかりである。**Autumn Leaves** は同名のストラスペイが2つあり、6回の演奏回数からマギー&ダンカン・ケピー作の2カップル・ダンスにふさわしいと思われる。**Asilomar Romantic**、感傷的なリード・チューンに続くのは、「わたしはわたしで生きて行く」とばかり、がっちりしたリズムと力強いメロディである。トラック13の**Huntly Castle** はジョン・ドゥルーリ作のロンデルとスパイラル・アウトのある3 couples in 4-couple ダンスなのであるが、演奏は4回しかない。録音時のカン違いであろう。さて、トラック14の**The Wild Geese** は10回の演奏である。リード・チューンもBook 24のMrs MacPherson of Clunyではなく、まったくなじみのない曲が演奏されている。アードブレイ・グループになぜ10回なのかを聞いたところ、同グループのクレイグ・ウィリアムズ(Book 46, The Missing Turnの作者)から回答あり、「同グループでは5カップル・セットになることが多く、10回演奏を希望した」とのことである。The Wild Geeseというよりも**Set of Jigs** とみなし、他のジグにも使えると思う。**Something in the Air** は3カップル・セット用の演奏。こちらはリズムがはっきりしすぎているので、流れるような演奏のRSCDS盤のほうが好まれるだろう。★★★〔注文略号：アトランティックCD〕



RSCDS Cheshire Branch 40th Anniversary … ブックおよび CD

CD - Robert Whitehead and the Danelaw Dance Band

- | | | |
|--|-------------------------------------|---|
| 1. The Lightning Conductor (8x32J) | 6. The Cheshire Branch Reel (4x64R) | 12. Chairman's Challenge (8x40J) |
| 2. Barbara White's Diamond
Strathspey (3x32S) | 7. The Wyches of Cheshire (3x32S) | 13. The Default Position (3x32S) |
| 3. Mr David W Mitchell (3x32J) | 8. Zoom into Dance (8x32R) | 14. A Reel for Liz (4x32R) |
| 4. The Cats of Milton Rough (8x32R) | 9. Chester Cross (4x32S) | 15. The Wee Small Hours (8x32S) |
| 5. Tarporley at Forty (4x32S) | 10. Paula Wright's Jig (8x32J) | 16. For Those in the Cheap Seats
(8x32R) |
| | 11. Old Pale Hill (3x32S) | |

チェシャーはイングランド北西部、リバプールの南にある県で 2024 年、ブランチ設立 40 年を記念して会員考案によるこのブックを出版した。ブランチの毎週のクラスは県都チェスターの東にあるターポリー町のコミュニティ・センターで開かれている。ターポリーといえば、ダイヤグラム集（グリーン・ブック）の編集委員会のあるところで、このダンスブック制作にもかかわった、とある。ブランチのティーチャーは、2009 年の東海ブランチ沼津合宿で講師を務めたダイ・ルーニー、朗らかな人でこのブックには彼女のダンスが 4 つ含まれている。

スクエア・セットの **The Cheshire Branch Reel** にはリバースの schiehallion reel がある。schiehallion reel はふつう ACW に移動するが、ここでは CW に動く。**A Reel for Liz** はミドル・ラインで reel of four を踊るが、4 人のスタートはサイドから、というルール。三角セットの **The Wyches of Cheshire** は、チェシャーの 3 つのグループによる年次合同ダンス会開催を記念して作られた、とある。これ以外のダンスの内容はみな既存のフォーメーションを組み合わせたもので、奇をてらったところのないオーソドックスなダンスばかりである。**The Wee Small Hours**（ほんの少しの間）は、フランク・シナトラの名曲に *In the Wee Small Hours of the Morning*（1955 年）という失恋歌があるが、単に名前が一致しただけであろう。インターミディエイト・クラスに最適なブックである。★★★☆☆ [注文略号：チェシャー・ブック]

CD はイングランド中部で活躍しているロバート・ホワイトヘッド・バンドの演奏で、身近なところでは RSCDS Book 44 が同バンドの録音である。同バンド、ストラスペイでエア系の演奏は不得意なようで、ニール・ガウヤスコット・スキナー、ミュリエル・ジョンストンの曲は使っておらず、ストロング・ストラスペイばかりである。代替曲は *Syd Chalmers, John Stephen of Chance Inn, Calum's Road, Joe Foster's Jig* など、どこかでダンスで聞いた曲が多く、そのぶんラララ・と歌いながら踊ることができる。どのトラックもリズムミク演奏で、「フライトしろ！」の意気込みが伝わってくる。ストラスペイはふつうのスピードだが、リールとジグは遅い。8x32 で 5 分前後の演奏なので、できたら再生時 3% ほど早くしたほうがよい。★★★ [注文略号：チェシャーCD]

* * * * *

ご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、
郵便振替 00240-0-63517 東京ブランチ
でお申し込みください（送料込み）。

アトランティック CD	¥3,700
チェシャー・ブック	¥3,100
チェシャーCD	¥3,500
チェシャー・ブック + CD	¥5,700

ショップ担当 渋谷明美 047-351-8581
(横尾委員体調不良のため)

締切り 3月7日(金)
(締切りを過ぎての送金をご遠慮ください)
お渡し予定 4月中旬

エジンバラ賛歌 大学・教会・街に満ちる音楽 横山正子著 (論創社 2750 円)

ダンサーにとってセント・アンドルーズを神社本宮とすればエジンバラは一の鳥居で、エジンバラで3泊も4泊もする人はいない。2泊程度で、ロイヤルマイルやプリンスズ・ストリートをそぞろ歩きするくらいであろう。

著者は桜美林大学名誉教授で、同大学でオルガン奏者・聖歌隊指導者を務めている。二十代の終わりにドイツ、オーストリアを訪れ、演奏スタイルもオルガニストとしての働き方もドイツ風のものであった。2005年、エジンバラで教会のオルガン演奏に接したとき、暖かく自然な流れの演奏で、聖歌隊は力強く歩く人間のバイタリティを感じさせた。スコットランドの教会音楽に興味をそそられ、2011年から12年の1年間、エジンバラ大学の客員研究員として、スコットランドの教会史の中で教会音楽がどのように扱われたかを研究した。そのため著者が選んだのは芸術学科でなく、神学科であった。

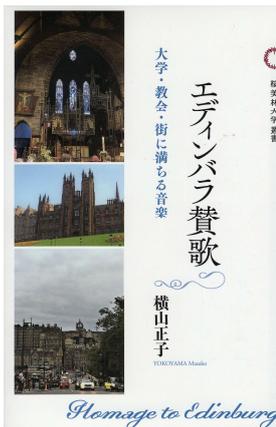
ジョン・ノックスによる宗教改革は16世紀中ごろに始まったが、彼は聖書を厳密に解釈する原理主義のジャン・カルバンの弟子で、スコットランドにおける宗教改革は苛烈なものとなった。セント・アンドルーズの大聖堂が破壊されたのも1559年のことである。音楽は人間の傲慢さや虚栄心を助長するとして、ノックスは教会におけるオルガン演奏や聖歌隊を排斥した。この思想はその後のクロムウェル政治、連合王国成立後も続き、約3百年間、スコットランドは教会におけるオルガン演奏が禁止された唯一の国であった。

オルガンは1台1台みな違い、軽い鍵盤や逆に全体重をかけないと鳴らないような重い鍵盤もある。メンテナンスができていないオルガンもあれば、演奏の途中で音が鳴りっぱなしになったり、鍵盤が上がってこないアクシデントもある。オルガニストはそんなときでも、涼しい顔で切り抜けなければならない。オルガニストは自分が向かっている楽器をいかに生かすかが仕事、という。余談ながら、評者は偶然ヤンガーホールオルガンを聞いたことがある。早めにヤンガーホールについてきたとき、SCDレッスンが始まるまでオルガニストが練習していたのである。

ロバート・バーンズならびに Auld Lang Syne (別れの歌でなく、永遠の友情と再会を信じ、誓いあう歌) についてそれぞれ1章が割かれているが、ニール・ガウ (1727~

1807) など、この禁止期間における民衆音楽については研究対象外のため述べられていない。

音楽に満ちる街の例として、エジンバラ国際フェスティバルとフリンジ、ミリタリー・タトゥーの始まりとその模様、 hogmaney の火祭りが書かれている。また、登山愛好家の著者は装備十分でベン・ネビス頂上をめざしたが、天候急変により危うく遭難しかけた△グラスゴーでバス・ドライバーに話しかけられたが、きついグラスゴー訛りでまったくわからなかった△12月のエジンバラは9時に夜が明け、午後3時半が日没。町のイルミネーションに救われる思い△プリンスズ・ストリート公園でマルドワイン (スパイス入りのホットワイン) を手にクリスマス・マーケットをめぐるのも元気が出る△公演が中止となってもしかたない、またの機会を待とうというのがこの国の基本精神、などのエピソードが書かれている。2023年8月刊。お求めは書店または Amazon で。



ブダペスト・ウィークエンド

Scottish Dance Club Budapest 主催

2025年10月17日~19日

Hotel Bara Budapest にて

€195 (¥33,000) ホテル代・前後の観光料金は別払い

講師：ヘザー・コーワン

音楽：ショーナ・マクファジェンおよび

ユーワン・ギャロウエイ

連絡先：Gabor Turi ガボル・チュリおよび

ウェブサイト bstk.hu/ball2025

3月 ブランチニュースは休みます

3月のブランチニュース、ブランチレターの発行はなく、次回発行は5月下旬になります。この間のお知らせはブランチホームページ

[rscds 東京ブランチ](#) [検索](#) をご覧ください。

お問い合わせ、ブランチ活動やレターに関するご意見・ご感想など、遠慮なくセクレタリ西森典子までお寄せください。グループちらしの配布依頼も西森あてにお願いします。